

市民がすすめたドイツのエネルギー革命と日本の脱原発・再生エネルギーの展望③

東京非核政府の会
第28回総会記念講演II要旨

千葉恒久さん (弁護士)

日本の再生可能エネルギー転換への

展望をどうみるのか

より恵まれている
日本の再生可能エネルギーの条件

では日本の再生エネルギーへの転換はどうか。

大陽光発電の場合・・・ドイツよりはるかに有利な条件持つ日本

日本の日照時間は年間平均で1900時間程度。太平洋側が日本海側に比べて条件がよくなっている。

ドイツは北ドイツより南ドイツの方が好条件な

高い所になります。

ドイツはというと、北ドイツの海沿いは風速が大体5〜6m/sで、風力発電の適地になっています。しかし、本当に良いのは海岸沿いの一部です。内陸部では丘の上など高い所でないとなかなかとれません。

日照時間は平均1700時間程度。これは日本で条件が悪いと言われる地域と同程度です。ですからドイツ人から見れば、日本の太陽光発電の条件は羨ましくてもしょうがないという状況です。

風力発電の場合――

日本はドイツより恵まれている

風力発電は、風速7m/s以上が好条件とされています。日本でこの条件に当てはまるのは海沿いで、内陸部では山の上などの



す。しかも良い風が吹いている平野部、内陸部も多い。これもドイツ人から見れば、非常に羨ましい状況です。

水力発電の場合――

日本の年間降水量はドイツの2倍

日本は雨が良く降り、年間の平均降水量はドイツのおよそ2倍にのぼります。しかも日本の地形は傾斜がきつい。水力発電には格好の条件がそろっています。

バイオマス発電の場合

日本は恵まれている

バイオマスはどうか。日本の国土の3分の2は天然林と人工林です。

かたやドイツの森は全体で1000万ha。日本の人工林とはほぼ同じ広さにすぎません。

日本の環境省が福島原発事故後に「日本の再生エネルギー導入ポテンシャル」を発表しました。

これによれば、風力(陸上・洋上)は190、000万KW、太陽光(非住宅系)は15、000万KW、中小水力(3万KW以下)が1、400万KWです。

これをみても、日本には余りあるポテンシャル(潜在的な力)があることがわかります。この数字は今後再生可能エネルギーの活用が進めば、さらに増えていくでしょう。ドイツもそうでした。

日本は再生可能エネルギーが伸びなかった三つの理由を考える

日本の再生可能エネルギーが伸びなかった三つの理由を考える

第一の理由

これほど条件に恵まれている日本で、なぜ再生可能エネルギーへの転換が進まなかったのでしょうか。

私はその理由として、三つの要因をあげたいと思います。

その一つは、政策的、長期的な政策がない、という点。とくに中央集権的な政策構造が身についてしまっています。

これを太陽光パネルの例で具体的に見たいと思います。

太陽光パネルの場合——太陽光パネルは、2000年代当初までは日本とドイツの設置量はほぼ同じでライバル同士だったのです。

ところが日本では、2005年に太陽光パネルの補助金を乱暴に打ち切ってしまった、脱落してしまいました。

太陽光パネルを増やすためには、単に技術が進むだけではなく、パネルの販売業者や施工業者などが根を張るようにならなくては行く必要があります。その仕組みが出来つつあるなかで、政府は乱暴に補助金を打ち切っていました。

同じ時期、ドイツは法律を改正し、太陽光発電の買取制度をより市民が使いやすくしました。

その結果、ドイツの太陽光パネルはぐーんと伸

び日本に大きく水を空けてしまいました。

日本も最近になって、補助金を復活して追いかけて始めましたが、両国間の溝はもう埋められないほど開いています。

バイオマスの場合——もう一つの例はバイオマスです。

バイオマスの資源をどう使うかという問題は林業政策が絡んできます。ドイツの森林面積は日本

の人工林の広さほどにすぎませんが、林業の売上高はGDPの5割(26兆円)にのぼっています。林業従事者は83万人。

林業は生きている産業なのです。しかも、ドイツの林業は森林の持続可能性をきちんと守ることを大前提にしています。

生態系への影響を最小限にとどめつつ、許される範囲で上手に森の資源を使っている。

ところが日本の林業は売上高がたった0・16兆

円。従事者は5万人程度です。

なぜこれほどの違いが生じたのでしょうか。日本には、林業を産業として育てようという政策が全くなく、林業も木材産業も昭和30年代から止まったままの状態です。

いまは、政府の補助金で細々と命を長らえているにすぎません。こうした山からは安定的にバイオマス資源が出てきません。いくら、発電ボイラーだけつくって

みても、バイオマスの利用は林業と地域経済の再生に結びついていけません。

第二の理由 ダメダメ神話の問題

日本で再生可能エネルギーの利用が進まない二つの要因は「ダメダメ神話」です。

「再生可能エネルギーはダメだ」とずっと言われてきました。

このダメダメ神話は、いまなお多くの人に影響を与えています。

「再生可能エネルギーはダメだ」という話がなぜか非常に通りやすい。どこにも根拠がないダメ

ダメ神話が簡単に浸透してしまふ。いくら世界中で劇的な勢いで再生可能エネルギーが広がっていても、そちらには目が向かないのです。

送電網について

ダメダメ神話の論者がよく持ち出すのは送電網の問題です。

「日本は送電網が細いし、島のようになっていて再生可能エネルギーはなかなか入らない」などと良く言われます。

しかしヨーロッパでも国と国を跨ぐ送電網は非常に細い。大体200万から300万キロワットくらいの容量しかない。

しかし日本と違うのは、その細い容量をいかに賢く、たくさん活用するか

という工夫をしているの

です。日本は、その細い送電網をほとんど使っていない。ここが決定的な違いです。

再生可能エネルギーは本

当に高いのか
もう一つの典型的なダメダメ神話は「再生可能エネルギーは高い」という神話です。「再生可能エネルギーになると電気料金はどんどん上がる」などと新聞などでもよく報道されます。

しかし石油価格をみると2000年当時と比べいまの石油価格は5〜6倍にあがっており、今後

もあがっていくと思えます。これについては誰も言わない。再生可能エネルギーばかり「高い、高い」と言うのですね。

将来の展望からみても

将来のことも誰も言わない。石油やガスは有限資源であり、価格もどん

どんあがっていく。ほとんどの人はそう予測しています。

かたや再生可能エネルギーの方はほとんど安く

なっており、今後さらに安くなると予測されています。発電コストが一番

高かったはずの太陽光発電は今や、最も安い電力に変わろうとしている。

再生可能エネルギーが石油やガスより安くなる日が近い将来にも訪れることはほぼ確実です。10年毎のトータルで見ると、

まだ再生可能エネルギーの方が高いのですが、2020年から2030年

くらいの10年間は大体トントンくらいになる。2030年以降は化石燃料で発電するより、再生可能エネルギーを使った方がずっと安くなります。

こういうことをドイツは考えて、将来の産業政策の投資、経済戦略として再生可能エネルギーを伸ばしているのです。

第三の理由 市民運動が立ち遅れ ている日本

最後に取り上げる要因は市民の無関心です。多くの人が政治に関わろうとしない。おそらくドイツ人には理解ができない政治感覚が日本では支配的です。

住民投票制度

住民投票制度がどのくらい使われているでしょうか。

ドイツでは年間300件くらい、コンスタントに住民投票がおこなわれています。

エネルギー問題に限らず、いろいろなテーマで住民投票がおこなわれて



います。

ドイツ人は、自分の意思を表明し、市民運動、とくに住民投票で政治を動かすことが市民としての責任だと思っています。

市民は、自分たちが決めていく、変えて行く、という立場で政治に係わっています。市民投票がおこなわれれば投票にも参加します。

これが日本とドイツの違いです。これが再生可能エネルギーを伸ばす大きなベースになっていると思います。

以上で話しを終わりたいと思います。

今日の話がきっかけになって、この日本社会をどう変えて行くのか、についてもう一度考えることにつながれば、と思います。

私は再生可能エネルギーの活用がそのための重要な手段になり得る、と考えていますが、みなさまどのような感想を抱かれ

ましたでしょうか。
長時間にわたりご静聴
ありがとうございました。

(おわり)

内外世論の力で核兵器廃絶の扉をひらこう 東京原水協が第59回総会で決意



東京原水協は3月29日、東京都内で第59回総会を開催し、2014年度運動方針を採択、新役員を選出しました。

三栖当会事務局長が 連帯のあいさつ

総会では、当会の三栖義隆事務局長が連帯の挨拶(写真左)をおこないました。

三栖氏は、さきの東京都知

本の紹介

千葉恒久著
「再生可能エネルギーが社会を変えるー市民が起こしたドイツのエネルギー革命」

定価 2100円

ドイツのエネルギー革命をめぐる動きを資料も豊富に詳しく紹介。

ご注文・現代人文社
電話 03-5379-0307



事選挙にふれ、「脱原発候補の一本化」という名目での一部の人たちの動きは、結局は宇都宮けんじ候補おろしであったと指摘。これに宇都宮陣営が毅然とした態度をつらぬいてたまたかかった意義を強調しました。

また三栖氏は、日本政府は内外世論に押されて、核兵器の非人道性を告発する国連決議には賛同したものの「核抑止」論にしがみついていると指摘。その例として、岸田外相の「極限の状況下では個別・集団的自衛権にもとづく核兵器使用を是認する」との発言に言及しこれを厳しく批判。

さらに、われわれの運動が前進すると必ず逆流が生まれることを正しく見ることが大

事ではないかと強調。核兵器廃絶と原発ゼロへの共同をさらにつよめ、もう一回り広げた運動の新たな飛躍を勝ち取りましょうと挨拶しました。

核兵器廃絶へ 東京から運動のうねりを

総会では、圧倒的な「核兵器全面禁止のアピール署名」の力で核兵器禁止条約の交渉開始を！、国民平和大行進、東京から大運動をおこし8月の原水爆禁止世界大会の成功させようなどの決意を固めました。

また東京非核政府の会や平和団体への参加や共同を確認しました。

東京を遠く離れて

東武東上線で池袋から65分ほどで「武蔵嵐山」の駅につく。「嵐山」、「あらしやま」ではない。「らんざん」と読む。京都の嵐山に似ているとかで、武蔵の嵐山「武蔵嵐山」と名付けられたそうである。この駅のある自治体が嵐山町で、ここに私が居を構えてから丁度40年になる。

気に入った小さな町

引越した当初は、都庁や九段下まで通勤に2時間近くを要し、「こんな遠くにきてしまって失敗したかな」と思ったりしたものだが、今ではなぜか私はこの人口19000足らずの小さな町が結構気に入っている。

これだというはっきりした理由は無いのだが、私の住む戸建ての集合団地の外に一步出ると、畑があり、小川や沼があり、何よりも高いビルが無いのがある。車を40分ほど走らせ隣の小川町を抜け、東秩父の山村地帯に出れば四季折々の里山の雰囲気を楽しむ。都心の喧噪とは全く無縁でのんびりした気分になれることが理由かもしれない。

東秩父には「東秩父七峰」縦走コースといわれる低山があり、私も時々ウォーキング代わりに歩いている。40年といってもこのうちの30数年は九段下や都庁に通っていて、私にとつてこの地は寝に帰るだけのベッドタウンでしか無かった。一時自治会の役員を引き受けたこともあったが、地域との付き合いも、子育ても殆どわが女房殿まかせであった。

頼まれて自治会役員に

そんな私が6年ほど前に自治会の副会長を引き受けることになった。当時、二人の女性の訪問を受け、「自治会役員を」と懇願された。「なぜ私にと」尋ねると、「共産党のポスターが貼ってあるから」「東京で労働組

非核・平和をめぐる内外の動きから

注目される中央区の平和祈念パーチャルミュージアム

中央区のインターネット上の「平和祈念パーチャルミュージアム」が注目されています。戦前、戦時下、戦後の中央区の姿や区内の平和モニュメントが写真で紹介され、戦災体験者の体験記をアニメーション化した「平和絵本」など活字にはない魅力があります。また小学校高学年から中学生を対象に平和の大切さを見つめ直すきっかけとなるよう、戦時下の歴史や出来事を学べる「チャレンジ！平和クイズ」などもあり、魅力いっぱいです。

合の委員長をしていたと聞いたので」がおもな理由であったらしい。そうになると、自分としては引き受けざるを得なくなっ

その後事務局長をやり、昨年4月から自治会長を引き受けている。地域のために立場の違い認め合い

地域に関わってみると、

こんな言い方は不遜かもしれないがこれが結構おもしろい。嵐山町には34の行政区がありわたしの住む行政区は「志賀2区」、それがそのまま自治会を形成し、自治会長は区長も兼ねる。したがって、町の行政とも関わりが多くなり、私の意にそぐわない付き合いもある。

は仲良くやれるのである。思想信条の違いを認め合い要求で団結するという労働組合の運営に長く関わってきたことが、地域の活動でも生きていうに思う。自治会長をあと何年続けることになるか分からないが、この地に居を移して40年、世話になってきた地域への恩返しができるばと思っている。九条の会やボランティア等の活動にも引き続き参加し、好きな山歩きも続けながら、楽しく地域活動を続けたいと思っている。

居を構えて40年、この地に恩返し気持ちで

西野 護 (元都職労委員長、埼玉・嵐山町在住)



自治会三役も共産党、自民党、公明党といった顔ぶれの時もあったが、志賀2区の地域のために